

## 輪ギク「飛驒黄金」における出荷時期の調節技術

【要約】輪ギク「飛驒黄金」の収穫時期は、夜間および昼間の温度管理により出蕾時期を調節し、出蕾以後は灌水および寒冷紗被覆で微調節が可能である。

中山間農業研究所 試験研究部

【連絡先】0577-73-2029

### 【背景・ねらい】

輪ギク「飛驒黄金」は、市場性が高く8月上旬の盆需要期に出荷できることから、予約相対取引を行い、価格安定を図っている。

生産者の経験から、摘心を5月1日までに行うことで6月15日に花芽分化し、8月上旬に出荷できるが、取引期間が8月上旬の10日間と短いため、年次変動により、収穫が5日前後するだけで取引期間に半分しか出荷できないことになる。

そこで特性を明らかにし、出荷時期の調節方法を確立する。

### 【成果の内容・特徴】

- 1 摘心からの花芽分化日数は、暗期温度が10℃より12℃、15℃で10～14日早まり、夜間保温して1℃ほど温度を上げると7日ほど出蕾が早まる（図1）。
- 2 摘心からの出蕾日数は、明期温度が20～30℃より35℃で50日遅れ、換気率を下げても5℃ほど昼温を上げると10日ほど出蕾が遅れる（図2）。
- 3 出蕾以降、毎日灌水に対し無灌水では3日程早まる（図3）。
- 4 出蕾以降、遮光率60%程度の寒冷紗を被覆すると3日程度遅れる（図4）。
- 5 6月15日に花芽分化させるために、反応期間を考慮して6月1日を分岐点として、5月は夜間サイドを下ろさず開放し、日中は換気率を下げても高温管理して、花芽分化を抑制する。6月は、夜間サイドを下ろして保温し、日中は換気を促し低温管理して、花芽分化を促す。出蕾時期により、灌水および寒冷紗により収穫時期を微調節すれば8月上旬が可能となる。

### 【成果の活用面・留意点】

- 1 花芽分化前に40℃を超える極端な高温により、障害が発生するので注意する。
- 2 出蕾以降に極端に灌水制限をすると上位葉が小さくなり、相対的に花首が長くなるため、規格落ちの要因となるので注意する。

【具体的データ】

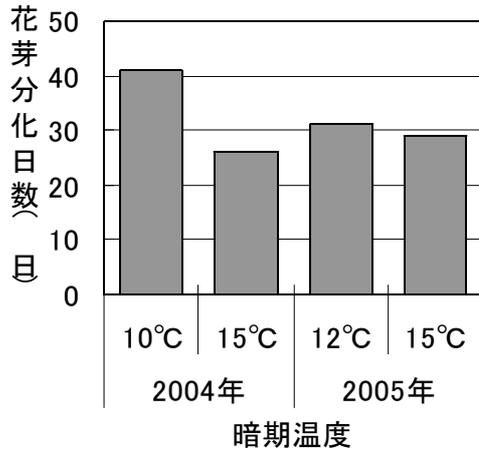


図1 暗期温度が花芽分化時期に及ぼす影響

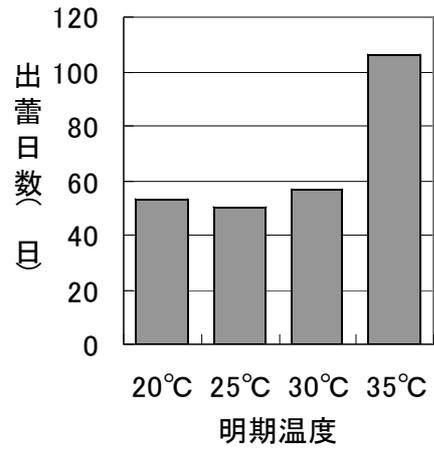


図2 明期温度が出蕾時期に及ぼす影響

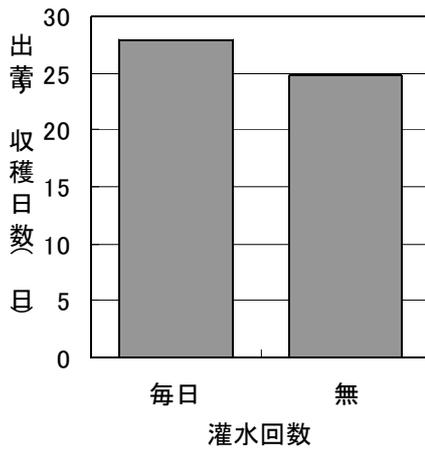


図3 出蕾後の灌水が収穫時期に及ぼす影響

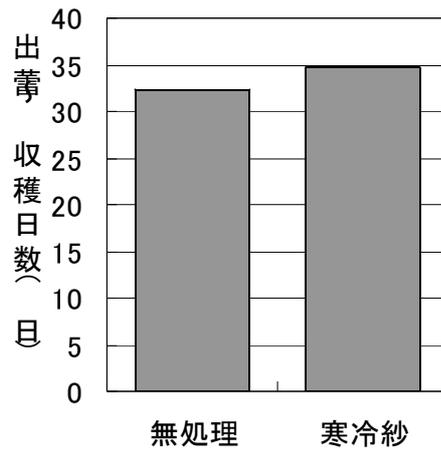


図4 出蕾後の寒冷紗が収穫時期に及ぼす影響

研究担当者：安江隆浩